

部門名	受賞者(組織)名	住所	概要
畜産	のうじくみあいほうじん 農事組合法人 はなばさほくじょう 花房牧場	南島原市	<ul style="list-style-type: none"> ・南島原市で肉用牛繁殖90頭、経産牛肥育24頭を飼養する法人経営体である。 ・平成10年から県内でいち早くエコフィードの推進や利用に取り組む。また、平成25年からは母牛のリハビリとして、遊休化していた国有林30haを活用した分娩後1ヶ月間の放牧を実施。併せて超早期母子分離、妊娠鑑定、給与飼料の適正化を実施することにより、全国平均405日、県平均397日に対し、367日の分婯間隔を実現している。 ・平成20年からは全国的にも珍しい、受胎能力の落ちた繁殖牛の経産牛肥育にも取り組んでおり、出荷した経産牛の枝肉を「花房和牛」として、長崎市内やレストラン、スーパー、インターネットで販売している。 ・平成25年からJA島原雲仙和牛繁殖連絡協議会長ならびに長崎県JA肉用牛部会長連絡協議会役員に就任し、島原半島はもとより本県肉用牛の振興に貢献している。 ・ゆとりある畜産経営を目指し、JA島原雲仙南部地区肉用牛ヘルパー利用組合の設立に中心となって尽力するとともに、ヘルパーの育成、指導に取り組んでいる。

平成30年度 「ながさき農林業大賞 長崎県知事賞」受賞者の概要

トップファーマーの部

部門名	受賞者(組織)名	住所	概要
野菜	ゆうげんがいしゃ 有限会社 まつやま 松山ファーム	雲仙市	<ul style="list-style-type: none"> ・諫早湾干拓地において、レタス63ha、ばれいしょ他8haで経営を行う野菜の法人経営体である。 ・レタスの栽培においては、品種の組み合わせなどによる作型の拡大を図り、特に厳寒期の収量、品質の安定化を図るため、平成27年度から本県では先駆的であるハウス栽培に取り組む。現在、13haのハウスで10月から翌年6月までの長期間で安定生産を実現している。 ・取引先に安全・安心なレタスを供給するためにGAPに取り組んでおり、今年度は、GLOBAL G.A.P.を取得する予定。 ・平成8年に法人化し、現在、17名を雇用するなど地域の雇用拡大に寄与するとともに、これまでの干拓地での経験や知見を、他地区のレタス農家に伝え、新たなレタス農家の入植や面積拡大、他の営農者の品目転換に貢献する等、諫早湾干拓地でのレタス栽培のリーダーとなっている。
果樹	ほんじょう 本城 充 ほんじょう 本城 かつ子	佐世保市	<ul style="list-style-type: none"> ・佐世保市で露地みかん283aなど温州みかんを主体とした経営を行う果樹専門の経営体である。 ・自宅周辺の耕作放棄地などを購入して全園を集約化し、就農当初の経営規模から約2.5倍に拡大。また、SS防除とマルチ巻上げ装置を全園に導入するとともに、肥料散布機やフォークリフトによるパレット輸送など、省力化に努めている。 ・計画的改植により、極早生から早生や「させぼ温州」へ転換を進めるとともに、大苗育苗による未収益期間の短縮と早期の収量確保を実現。あわせて、植栽間隔を工夫し産地トップクラスの単収を達成。みかん全園を指定園に登録し、栽培管理を徹底することにより高品質みかんを生産しており、西海みかんブランド「味っ子」「味まる」として出荷している。 ・JAながさき西海させぼ地区かんきつ部会副部会長、佐世保市認定農業者協議会早岐支部長、上重尾環境保全組合役員、農業士などを歴任し、県北地域のみかん産地及び地域の発展に貢献している。
花き	にしむら 西村 鉄舟	諫早市	<ul style="list-style-type: none"> ・諫早市で、カーネーション45a、ランンキュラス30a、草花10aで経営を行う花き専門の経営体である。 ・カーネーションについては、部会独自の株の仕立て方法で高品質、高単収を実現するとともに、地元企業とともに灌水同時施肥システムを開発し、省力化を図っている。所属する出荷部会「JAながさき県央諫早カーネーション部会」の中核的な生産者であり、部会は全国の市場から高い評価を得ており、本県を代表するカーネーションの産地となっている。 ・平成17年に、まだ国内でほとんど生産がされていなかったランンキュラスに着目し栽培を開始、試行錯誤を繰り返しながら栽培技術を確立。現在は8名の生産者でJA系統の出荷組織「Freeze」を立ち上げ、全国でも有数のブランド産地となっている。また、県ランンキュラス研究会の会長として、民間育種会社と協議しながら本県オリジナル品種の選定、導入を行っている。 ・県花き振興協議会青年部長やカーネーション部会の副部会長を務めるなど、若手花き農家のリーダー的存在となっている。また、オーストラリアで輸出先を調査するとともに、海外バイヤーの視察受入や意見交換を行い、輸出を行うなど先駆的な取り組みを実践している。

部門名	受賞者（組織）名	住所	概要
農産	のうじくみあいほうじん 農事組合法人 いけだなかしも 池田伸下	吉野市	<ul style="list-style-type: none"> ・吉野市で水稲626a、大麦513a、大豆237a、その他79aの集落営農組織である。 ・旧石田町の大区画圃場地区において、県内でもいち早く集落営農に取り組み、農業機械の効率利用と水田農業の効率生産体制を確立した集落営農法人であり、土地利用型農業のモデル経営体となっている。 ・水稲は、「つや姫」、「おてんとそだち」、「にこまる」と全面積高温耐性品種を作付、作期分散と管理の徹底を図り、全量1等、収量も吉野のトップクラスである。また、麦は全量吉野焼耐用の大麦はるか二条を生産、全量1等Aランクで収量も吉野のトップクラス、県内でも群を抜いた高い生産性による利益の高い経営を行っている。また、水稲「つや姫」と大豆において特別栽培に取り組み、環境保全型農業も積極的に実施している。 ・集落営農法人の次世代リーダーの育成や後継者の育成にも取り組んでおり、地域農業の発展に尽力している。
特産	ゆうげんがいはちほうちえん 有限会社法知園 いでしんご 井手眞悟	松浦市	<ul style="list-style-type: none"> ・松浦市で茶園630aの生産と周辺農家の生葉を買取り、自園とあわせて年間に荒茶15トン製茶、販売する茶専業の経営体である。 ・ほぼ全園を乗用機械で管理し、労働力・作業時間削減を図るとともに、周辺農家から茶園を借受け、規模拡大と耕作放棄地の解消を実現。また、大型製茶工場による製茶作業の効率化とともに、茶の合組み、袋詰め、包装工程の自動化により製茶及び販売にかかわる作業の自動化による省力化に取り組んでいる。 ・生産される茶の全量を自社店舗販売、ギフトショップや葬祭会社との契約販売を行っている。加えて、地元松浦市の茶葉を用いたペットボトル茶（商品名：松浦のお知家）を開発し、日本橋長崎館で販売している。 ・JA茶葉部会をはじめ研究会組織等での消費者ニーズ把握の取り組みとともに、県北地域の茶の担い手で構成される「ながさきグリ茶研究会」で会長を務める等、茶の振興に寄与している。
林産	かぶしきがいしゃ 株式会社 にしりん 西林	対馬市	<ul style="list-style-type: none"> ・対馬市で木材生産を102haで行う林業経営体である。 ・4年前から本格的に機械設備整備を進め、経営規模は5倍に拡大。労働生産性は県内トップクラスの4.2㎡/人日。また、生産コストは県平均9.9千円/㎡に対し、7.1千円/㎡と低コスト化を実現するなど、県内でも優れた取組を行っている。 ・生産された木材の8割超を協定販売しており、出荷先は地元の製材市場のほか佐賀県の木材市場、島根県の合板工場や、海外では韓国や中国と、全国的にも優れた取組みである。 ・対馬森林組合の請負作業班から組織を法人化するとともに、徹底した機械化を推進することで、県内トップクラスの労働生産性を実現し、対馬市内の林業事業体の模範となっている。
しまの 農林業 経営	やまいし 山石 よしひこ 吉彦 やまいし 山石 ともはる 知治	吉野市	<ul style="list-style-type: none"> ・吉野市で肉用牛繁殖56頭の経営を行う畜産経営体である。 ・分娩間隔の短縮や子牛の発育状況の改善など飼養管理技術の向上に取り組んでおり、昨年開催された第11回全国和牛能力共進会では、長崎県代表に選ばれ好成績（第3区1等賞）を収めた。また、県内で先駆けて島内資源である焼酎粕を飼料として利用しており、この取組は島原など他地区に波及している。 ・JA吉野市勝本地区青年部に所属し、今年度からJA青年部長に就任。地元の幼稚園、小学校と連携して、水稲や野菜の栽培などの食育活動を継続し、積極的に地域活性化に向けて取り組んでいる。 ・和牛ヘルパーや肉用牛研究グループにおいて、地域全体の肉用牛の振興、活性化に取り組んでいるリーダー的存在であるとともに、平成27年から2年間、吉野地域の農業士会長として、地域の後継者の育成等に貢献した。

いきいきファームの部

部門名	受賞者（組織）名	住所	概要
産地 集団	しまばらうんぜんのおきょう 島原雲仙農協 うんぜん 雲仙ブロッ りー部会 ぶかい	雲仙市	<ul style="list-style-type: none"> ・雲仙市吾妻町および愛野町でブロッコリー150haを栽培する部会員46名の生産部会である。 ・高齢化に伴う労力軽減対策としてブロッコリーをいち早く導入し、基盤整備による機械化体系の構築、10～6月の長期出荷作型の確立、共同選別出荷施設の整備、氷詰め発泡容器による出荷に取り組み、県内の露地野菜産地が縮小傾向のなか、作付規模、生産量ともに拡大している。 ・ブロッコリー専業経営の育成にも力を入れ、1戸あたりの作付け面積は全国トップレベルの3.3haとなり、全国を代表する産地として高い評価を得ている。 ・当部会の先駆けた活動や成果は県内ブロッコリー生産者の模範であり、県のブロッコリー振興に大きく寄与している。
地産 地消 ・ 食農	ながまきしさんわ 長崎市三和 のうすいさんぶつちよくばいじょ 農水産物直売所 みさきさんわ みさき	長崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の促進と地域交流の活性化を目的として、運営母体の（一財）長崎市地産地消振興公社とともに設立された。 ・長崎市内の農水産物直売所の中でもトップクラスの販売規模を誇る直売所である。 ・年間5名（任期2年）の消費者モニターを設置するとともに、公社職員との意見交換会を年に2～4回程度開催することで、顧客の意見や要望を直売所の運営に反映させ、さとつきびシロップ・アイスといった新たな加工品の開発など、消費者のニーズを意識した取組を行っている。 ・新鮮な食材の提供にこだわり、消費者のニーズに応じた食材の品揃えを強化し、より地域の消費者に喜ばれる直売所を目指して努力している。 ・高齢者に対する集荷体制の構築や消費者ニーズの把握による集客により直売所が発展したことで少量多品目の産地が形成され、地域内農業の活性化に寄与している。

さんちビレッジの部

部門名	受賞者（組織）名	住所	概要
都市 との 交流	さいかいげんきむら さいかい元気村 ぎょうざかい 協議会	西海市	<ul style="list-style-type: none"> ・「さいかい元気村協議会」は、中核となる2つの実践団体を中心に西海市と市観光協会とで構成され、設立から10年を経過している。 ・実践団体の「エコヴィレッジさいかい元気村」は、遊休みかん園を活用した体験メニューを中心に18種の多彩なメニューで活動しており、季節に応じたイベントを組み合わせたしながら、農作業体験だけではなく、自然体験や田舎暮らし体験を提供している。 ・「さいかい元気村村の菓子工房」は、地域の特産物を活用した菓子づくりと販売に取組み、空港等の地域外においても販売を展開している。 ・協議会は、各団体との連携や調整、市内外で開催されるイベントへの参加、長崎国際大学と連携した学生のアイデアを取り込んだ体験メニューの開発等、地域の活性化に大きく寄与している。

トップファーマーの部

部門名	受賞者（組織）名	住所	概要
野菜	よしだ 吉田 りょういち 良一 よしだ 吉田 りつこ 律子	雲仙市	<ul style="list-style-type: none"> ・雲仙市で白ねぎ400aなどで経営を行う露地野菜専門の経営体である。 ・所属するJA八斗木白葱生産組合で共同育苗ハウスを設置し、共同で育苗を行う体制を確立。チェーンポット育苗導入による定植時の省力化、収穫機、出荷調整機など労力軽減を図っている。また、品質保持のためコールドチェーンに取り組んでおり、組合の「八斗木葱」の品質は高く評価され、名古屋、大阪等にも販路を広げている。 ・生産組合の副会長として、基盤整備事業や農地中間管理事業を推進し、担い手への農地集積や規模拡大に取り組み、部会は平成27年以降高い販売実績を上げている。 ・農業経営の安定と労働時間、休日の設定などを明記した家族経営協定の締結に積極的に取り組んだことにより、部会員19名中10名が後継者を確保し、地域の小学校では児童数が増加傾向にある等、地域の活性化につながっている。
野菜	さかい 酒井 みつのり 光則 さかい 酒井 えつこ 悦子	南島原市	<ul style="list-style-type: none"> ・南島原市で、春作ばれいしょ400a、秋作ばれいしょ270aなどで経営を行う露地野菜専門の経営体である。 ・春ばれいしょにおいては、植え付け機、掘取機など機械による省力化を図るとともに、県外産種いもやベタがけ資材の活用により4月から6月まで計画的な出荷を行っている。また、県育成品種「さんじゅう丸」の拡大や新品種「アイマサリ」の現地実証に積極的に取り組む等、ばれいしょの生産振興に尽力している。 ・平成22年から空池原地区の基盤整備における推進リーダーを務め、農地整備事業を推進。また、空池原土地改良区内で農地中間管理事業の活用を中心となって推進し、平成27～29年に54haの農地集積を図ってきた。 ・平成29年からJA島原雲仙大雲仙馬鈴薯部会の部会長を務め、管内のばれいしょの生産振興及び販売対策等に尽力。また、平成27年からJA島原雲仙農協理事を務め、管内農業者の所得増大や組合員の地域リーダーとして地域の活性化等に寄与している。
果樹	やまだ 山田 きみひろ 公彦 やまだ 山田 きみこ 公子	東彼杵町	<ul style="list-style-type: none"> ・東彼杵町で露地みかん200aを主体に、水稲、茶を組み合わせた複合経営体である。 ・H9にバックホーで園地改造・園内道整備に取り組み、自宅周辺に露地とハウスの圃場を集約。急傾斜地を除く園地でのSS防除、みかん園の90%でのマルチ巻上げ装置の導入、フォークリフトの導入等による省力化に努めている。 ・除草剤使用の低減や雑草抑制のため、園内にナギナタガヤを草生し、除草作業を省力化。また、極早生を改植して早生以降の栽培面積を拡大。特に、需要期の12月から年明けに出荷するみかんと不知火が全体の2/3を占めている。その他に、ハウスびわ跡地を借用して無加温ハウス不知火を栽培し、長期貯蔵による収益確保と労力分散を実現している。 ・JAながさき県央みかん部会北部副会長として、市場との信頼関係を構築。また、山田地区代表として中山間直接支払制度に取り組み、地域の活性化に貢献している。
花き	ほんだ 本多 ひろき 博樹 ほんだ 本多 ようこ 洋子	島原市	<ul style="list-style-type: none"> ・島原市で施設65aで輪ぎく栽培を行う花き専門の経営体である。 ・輪ぎく栽培では、摘芽、摘蕾作業の省力化が図れる無側枝性品種の導入や自動カーテン、自動換気、灌水装置、開花調整に用いるLED等などを導入し、省エネ、省力化を図っている。また、夏季にヒートポンプを活用した夜間冷房を行うことで高温による奇形花、開花遅延を防止するなど、高品質なきくの生産を実現している。 ・販売面では、需要が高まる年末など物日で市場と予約相対取引を行うとともに、近年、需要が高まっているディスプレイ等の洋ギくを生産することで、単価向上も図っている。 ・JA島原雲仙「長崎きく生産組合」組合長ほか、長崎県キク部会副会長等を務め、また、環境制御技術の新技术に積極的に取り組むなど、地域花き農家の牽引する生産者である。

畜産	やまもと 山本 やまもと 山本	よういち 洋一 けいぞう 敬蔵	・平戸市で肉用牛繁殖52頭を飼養する経営体である。 ・県内でいち早く牛舎に隣接した放牧地を活用した繁殖経営を実践。また、哺乳ロボット の導入にもいち早く取り組み、多頭飼育と超早期母子分離技術の両立を行い、全国平均 405日、県平均397日を大幅に下回る、367.8日の分娩間隔を実現している。 ・ヘルパーの研修会や関係機関への働きかけにより平成27年に生月和牛定休型ヘルパー組 合の設立に尽力し、組合長として組織運営に取り組み、ゆとりある畜産経営を目指してい る。 ・JAながさき西海理事、生月地区和牛部会役員を歴任するなど地域のリーダーとして、地 域の活性化に取り組んでいる。
畜産	ながよ 長與 ながよ 長與	かずのり 和則 てるよ 輝代	・波佐見町で肉用牛肥育118頭を飼養する経営体である。 ・いち早く「長崎型新肥育技術」に取り組み、高品質低コスト生産を実現。枝肉重量、枝 肉価格、上物率とも県平均を上回る好成績となっている。 ・JAの畜産指導員や畜産課長を歴任。その経験を生かし、作業効率の高い建物を材料費の みの低コストで自力施工するとともに、自作ソフトを使った個体管理を行うことで、低コ スト化に取り組んでいる。 ・波佐見町認定農業者協議会長や長崎県農業士を務め、また、JAながさき県央肥育牛部 会波佐見町支部長に就任するなど、地域のリーダーとして農業振興に尽力している。
特産	ふじた 藤田 ふじた 藤田	まさかず 正和 みゆき 美由紀	・東彼杵町で、茶園700aの経営を行う茶専業の経営体である。 ・平成14年に経営を引き継ぎ、移譲時点の茶園面積350aを15年で倍増させ、経営の安 定化を図る。乗用機械に対応する基盤整備を行うことで、製茶機械の増設による省力化を 図り、全園の乗用機械管理を行っている。また、適正な土づくり、肥培管理や優良品種の 新改植により高品質・高収量を実現している。 ・自力で販路拡大するため営業活動を開始し、県内の道の駅、直売所、老人ホーム等で販 売を行い、販売金額の約60%を小売販売することで収益を確保している。 ・JA茶業部会、研究会組織に積極的に参加し、茶の生産改善に取り組むとともに、「なが さき高機能茶有限責任事業組合」の立上げに尽力し、市場単価の低い二・三番茶の高付加 価値販売を行っている。
しまの 農林業 経営	てらわき 寺脇 まさよし 政善	五島市	・五島市で肉用牛繁殖48頭の経営を行う畜産経営体である。 ・営農指導員時代に培った知識を駆使し、適切な飼養管理に努めており、本山地域の肉用 牛部会支部長を務めるなど、地域からの信頼も厚い。また、家畜人工授精師の資格を有し ており、地域の農業者に対し年間100頭の人工受精を行うとともに、飼養管理のアドバ イスを行うなど、地域の肉用牛振興に大きく寄与している。 ・省力化を図るために、手動で行っていたスタンションの開閉作業を自動で行うシステム を自ら開発するなど、先進的な取組みを行っている。 ・肉用牛専門部会（名称：べんこはーと）の初代会長として部会を設立。現在は会員が 20名に増加し、青年農業者から頼れるリーダーとして慕われている。除角などの地域支 援活動を行っており、地域に欠かせない存在となっている。

いきいきファームの部

部門名	受賞者（組織）名	住所	概要
産地 集団	ながさきけんあうのうぎょうきよ 長崎県中央農業協 同組合いちご部 会中部支部	大村市	<ul style="list-style-type: none"> ・大村市でいちご11.4haを栽培する部会員63名の生産部会である。 ・早くから良食味で多収性の「ゆめのか」への転換を進め、並行して、株冷栽培や環境制御装置の導入や県下一の稼動数を誇るパッケージセンターの設立に取り組み、県下2位の単収をあげている。 ・贈答用大玉1段詰め規格や、県内加工業者とのスイーツの開発、ケーキ用いちごの出荷、農大生・就農希望者の受入などの活動も展開している。 ・現在の産地規模で最大の成果をあげるため、優良品種・施設装備・パッケージセンターの導入、加工や新規規格などの幅広い取組を行っており、他地域の模範となっている。
産地 集団	ひらどしんりんくみあい 平戸市森林組合	平戸市	<ul style="list-style-type: none"> ・平戸市で菌床しいたけ108万菌床を栽培する森林組合である。 ・平成5年から平戸市で初めて菌床栽培を開始し、しいたけの生産販売一貫体制を構築、地元しいたけ生産者とブランド名「平戸ロマン」を販売し、生産規模は全国トップレベルとなっている。 ・地元材を活用した菌床生産、地元雇用及び障害者雇用の取り組み、ふるさと納税返礼品への登録等、地域振興へも大きく寄与している。 ・地元資源の活用や雇用を積極的に行うとともに、平戸市で初めて菌床栽培に取り組み、全国レベルの生産体制の下、ブランド「平戸ロマン」を浸透させた功績は大きい。

げんきビレッジの部

部門名	受賞者（組織）名	住所	概要
都市 との 交流	つばみみょうしんにうきよ 津波見名振興協 議会	南島原市	<ul style="list-style-type: none"> ・廃校となった小学校区をエリアとした地域住民により自主的に結成された組織で、設立して45年になる。 ・「長崎県だんだん畑十選」に認定されたのを契機に「だんだん畑じゃが掘り体験バスツアー」を開始し、昨年度までに通算8回開催している。 ・旧津波見小学校の学校行事であった「孝子祭」を、廃校後、地域行事として受け継ぎ、地域の行事として定着化している。 ・廃校を活用した交流施設「孝子の里つばみ交流café」を2ヵ年間の実証実験を経て、本年4月からプレオープンし営業を行っており、1営業日当りの来客数が30～50名となっている。 ・地域の老若男女一体となった取り組みは、交流部門だけではなく多岐にわたり、地域の活性化に大きく寄与している取組みである。

平成30年度 「ながさき農林業大賞特別賞」受賞者の概要

部門名	受賞者（組織）名	住所	概要
特別	ヤベホーム かぶしきがいしゃ 株式会社	諫早市	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤベホームが発起人となって、平成25年12月に対馬市や真樹販売株式会社、長崎県林業公社等とともに「ながさきカーボン・オフセット推進協議会」を設立し、6年間でヤベホームとしては、これまでに森林約44haが吸収する二酸化炭素を購入し、協議会としては、森林1,030haが吸収する二酸化炭素を、県内外の業者に販売して、協議会に参加する林業者の森林整備に資金を還元し、良質な木材の生産と森林保全を行っている。 ・県産材を利用した住宅の建築時などに排出される二酸化炭素と「ながさきカーボン・オフセット推進協議会」から購入したクレジットを相殺した住宅を「オフセット住宅」として県内で唯一販売し、昨年度までの5年間で100棟の建築を達成した。 ・県産材を使った家を県内で拡大する取組として、発起人となって県内5社に呼びかけて「ながさ木住まいの会」を平成29年に設立し、会として対馬ヒノキを土台に用いる建築や諫早市の住宅団地の28区画における県産材の住宅建築を行い、県産材の利用を積極的に推進している。 ・林業者の経営の発展及び、県産材の利用拡大と消費者への認知度向上に貢献している。